

市民が集まり、憩い、楽しめる緑豊かな場所にいたしましょう



森の中の高知駅



高知を愛する皆様へ（「お知らせ」令和4年1月号）

令和4年1月1日

先月も駅南口「みんなの庭」の手入れをいたしました。
初参加の方も2名。たいへん心強く、有難いことでした。

数年ぶりの大寒波の襲来にも耐えて、お蔭様で11月に植えた花苗が順調に育っています（右の写真）。



新年の活動日は1月16日（日）09:00~10:30。南口
電停脇花壇「みんなの庭」の手入れを続けます。

<2月は13日（日）、3月も13日（日）の予定です。>

○トピックス：

— 12月13日（月）、高知市みどり課を訪問、11月に頂いた花苗のお礼と植え替え完了を伝えました。枯死したシンボルツリー『カナリーヤシ』（南口電停南、「お知らせ」12月号ご参照）の復活運動は年を越すこととなりました。

— 南口の東南隅に県内の短歌愛好家らが
2009年に建てた「石川啄木父子の歌碑」の周りが荒れていることに気づいてみどり課に通報したところ、さっそく整備してくれました（右の写真）。

枝ぶりが見事なソテツですが、実に毒性があるので、散歩の愛犬が食べないようにご用心とのこと。犬は何でも口にする習性があり、愛犬家の間ではユリ科植物の球根や夾竹桃なども要注意とされているようです。



駅前緑化活動はご賛同の方々のご厚志で維持されております。引き続き皆様のお力添え（花苗持ち寄り、勤労奉仕、ご寄付など）をお願い申し上げます。

♥森の中の高知駅♥ 幹事連絡先：〒780-0042 高知市洞ヶ島町1-11

中田昌志 携帯電話：090-8849-3651 E-mail：m.nakata1941@gmail.com

公文敏雄 携帯電話：090-7016-3743 E-mail：kumont2@yahoo.co.jp

ホームページ： <http://mori-kochi-ekijimdo.com/>

取引銀行：四国銀行よさこい咲都支店「森の中の高知駅 ナカタマサシ 代表中田昌志」名義 普通 0709695

○育ちゆく樹木—

子どもが植えてきた木々が、少しずつ成長しています。写真でご紹介させてください。



←2013年、南口3志士像前に設置した大型プランター3基の一つイロハモミジ(写真左: 昨年11月21日撮影)

→2015年、北口駐輪場に樹木60本植樹。写真は紅葉風景(12月12日撮影)



南口駐車場西脇には、2011年から2014年にかけてトサミズキ、ガマズミ、ヤブツバキなど低木30本以上を植樹、今や「小さな森」となりました。残念ながら現在冬枯れ状態です(写真下)。



→ナギの木に実がなっています。

緑のまちづくりを考える(55)

—「お知らせ」令和4年1月号コラム—

「森」は「いのち」— 縄文人の伝言

或る場所(例えば「森」)で、癒される、心が落ち着く、懐かしい気持ちができる といった体験がございませんでしょうか? 「森が出す、耳に聞こえない高周波が、皮膚から脳内に伝わって安らぎと感性・感応力の高まりをもたらす」といわれています(大橋力氏。脳科学者)。一方で、私は、或る場所で(または或る物に)無意識の感応を示すのは、私たちの脳内に遺された先祖の遺産=DNA が関わっているのではないかと考えるのです。

去年7月、三内丸山遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産に登録されたとのニュースが流れました。「紀元前1万3千年ごろから約1万年超の長期間にわたり、持続可能な定住生活を維持し続けた」ことが評価されたとか。そして、当時の人々の「狩猟・漁労・採集」生活を支えたのが豊かな自然、とくに「森」であったことも明らかになりました。

彼ら縄文人は、紀元前千年~数百年ごろ稲作技術と金属器を持って大陸・半島から大挙渡来した人々と混血して弥生人となり、更に紀元後から古墳時代にかけて2度目の大規模渡来があって混じりあった結果が今の日本人を形成したとの説があります。現代人に多かれ少なかれ縄文人の遺伝子が伝わっているということです。縄文遺跡群の世界遺産登録を、あたかもご先祖のなせる偉業のように嬉しく感じるのも不思議ではありませんね。日本人の「いのち」の拠り所である「森」と木々をこれからも大切にしてください。

おわり